

新病院長就任のご挨拶

病院長 **かどや 直孝**



富山労災病院は、良質で安全な医療を
魚津市民に提供するというミッション
に対し、今後も全力で挑み続けます。



この度、平野典和院長の後任として4月より第十代富山労災病院長に就任した角谷直孝と申します。

私は金沢大学出身で、2011年（東日本大震災の起こった年）4月に富山市民病院から外科部長として当院に赴任してまいりました。

以来12年間、臨床面では外科専門医として消化器癌の手術や抗癌剤治療、腹膜炎などの手術に取り組む一方、地域医療連携室長として地域の診療所、病院の先生方との連携の旗振り役を努めてきました。

困難も多々ありましたが、当院の理念である「働く人々・地域の皆さんに信頼され、愛される病院を目指します」を実現するため、日々取り組んで参りました。

2016年11月には念願であった新病院での診療が始まり素晴らしい環境で仕事ができることに大変な感銘を受け、改めて地域医療を守ることの使命を感じました。

新病院は最新の施設に加え、医療機器も魚津市の御支援で最先端の機器を備えることができ、以前にも増して病院機能を充実させ地域の中核病院として、魚津市民病院的な立ち位置を確立できたと思っております。

しかしながら、当院が新病院での診療を開始した前後から医療を取り巻く環境は大きく様変わりしつつあります。

巷でも話題となったいわゆる2025年問題がその一つです。

県の地域医療構想の検討が県内の2次医療圏を中心に始まりました。団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて、これまでの医療ニーズが大きく変化するであろうことを視野に、医療提供体制の方向

転換を計画するものでした。新川医療圏でもこの構想に従い計画が策定され、当院では独自の判断で37床の急性期病床の休床と障害者病棟を閉鎖し、回復期の病床である地域包括ケア病棟を導入しました。

更に、2020年に始まったコロナパンデミックでは増え続けるコロナ陽性者の入院治療に対応するため、一時的に地域包括ケア病棟を休止してコロナ専用病棟の運用を開始しました。

未知の病気との戦いは想像を絶するものでしたが、我々は発熱外来や救急外来での発熱患者の対応、コロナ陽性者の入院の必要性を評価する外来など、内科医師だけでなくすべての診療科の医師と共に、看護師、コメディカルが一丸となって取り組んできました。幸い、この原稿を書いている2月の時点では第8波の波は収まりつつあります。

その一方、この現象は当院だけのものではありませんが、外来、入院とも患者数の減少が常態化しております。

今後、魚津市をはじめ新川地域では急速に若年人口の減少、高齢化が進み2035年をピークに高齢者の人口も減少が始まります。コロナ禍での高齢者の受診抑制が常態化する中、適正な病床数、病床機能を見極めてウィズコロナ下での診療体制の確立に向けて対策を講じなければなりません。

また、医師の高齢化、大学から派遣される医師数の減少により、今後これまでと同等の医療（特に救急医療）を提供できるのか、不安は尽きません。

しかし、良質で安全な医療を魚津市民に提供するというミッションは挑み続けて参ります。

私病院長は元より、今後も職員一丸となって、全力を尽くす覚悟でございます。皆さまには引き続き富山労災病院への御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和5年4月
富山労災病院
病院長 角谷直孝

〈略歴〉

出身 東京都
出身大学 金沢大学（1985年卒）
専門分野 消化器外科
学会資格 日本外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本消化器病学会専門医、指導医

〈趣味〉 釣り、自転車

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ（URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>）

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280（病院代表）

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。